平成24年（2012）
阿づまの光
6月号・Junio

五代教主作 灰釉茶盌 銘「みろくの春（別名・みちのくの春）」
六盌のうちの一盌
［ヨルダン土・山形サクランボ釉］

題字 出口直日

通巻 第519号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03-3821-3701
（IP）050-5510-9502
FAX 03-3821-5283
URL http://oomoto-tokyo.com
E-mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

善きにつけ悪しきにつけて天地の
神にいのるは人の真心

出口王仁三郎聖師

鎮静と復興を祈って

愛善宣教課主幹 成尾 義

去る三月二日から五日、教主さまは宮城分苑の春季大祭ご臨席と東日本大震災で甚大な被害をもたらした被災地（岩手・宮城・福島）訪問のため、ご親教になりました。

各被災地で教主さまは、自らおたてになられた薄茶をささげられ、神言を奏上になり、ご神水（金明水と玉水）を海や大地にそそがれ、ゆくりなくも犠牲となられた数多のみたまの慰霊と、余震の鎮静と復興をご祈願されました。

またこのたびのご親教に先立ち、二月二十日から三月六日まで、信徒二名のご奉仕による修祓隊が組織され、被災地三県の港湾や神社など八十七ヵ所をめぐり、修祓や震災の鎮静と復興を祈願しました。

このご親教に際し教主さまは、『このたび岩手・宮城・福島の被災地に、修祓隊として出向していただいたことは、大変ありがたいことでした。今後、茨城・千葉など関東の被災地にも修祓隊を派遣していただきたい』とのご教示があり、それを受けて、東京本部・東京宣教センターの職員は、茨城・千葉両主会の役員・信徒と共に、津波の被害の大きかった被災地沿岸部をめぐることとなりました。

五月十七日、私は千葉主会の皆さまにご案内をいただきながら、千葉県下で最大の被害が出た旭市の港湾と九十九里海岸が拡がる山武市本須賀海水浴場に於いて清祓を執り行い、聖地のご神水（金明水・玉水）を散水したほか、近隣の玉崎神社（旭市飯岡）と御中主神社（山武市緑海）にて、鎮静・復興祈願の祝詞を奏上しました。

岩手・宮城・福島の三県から比べますと、確かに被災者や被災家屋の数は少ないですが、今なお手つかずのまま放置されている家屋や更地を目の当たりにすると、両地区も全く同じ被災地であり、亡くなられたみたまのみ幸と、被災された方々が一日も早く安心して暮らせる日々が訪れることを願わずにはいられませんでした。

これからも信仰者として真剣に祈り捧げ、引き続き、支援に取り組みたいと存じます。

「出口なお・出口王仁三郎の世界を語る」より

激動の時代をいかに生きるか

―幸せは不幸の顔をしてやってくる―

講師 藤原直哉（ふじわらなおや）
（シンクタンク藤原事務所会長）

神さまが見える穴

私は現在、経済や世の中の分析を行い、人材育成を目的とする研修の開催などを本業としています。

そんな私が大本に入信し、神さまをご奉斎して今年で十年になりますが、十五年ほど前までは、完全な無神論者でした。それまでは、人間は生まれた時にすべてが始まり、死んだらすべてが終わって、あとは一切何もないと固く信じて疑いませんでした。

しかし大学で数学を教えていて、数学は完璧だと思っていましたが、穴があいていることに気がつきました。そしてその穴の向こうに今の科学では解き明かせない世界があることに気がついたのです。

つまり〝神さまがいらっしゃるな！〟と思ったのです。

何か助けていただいたという経験ではなく、数学を教えていて神さまが見える穴を見つけたのです。

一身に祈りを捧げる

それで私は、一番オーソドックスな方法で神と接してみたくなったのです。一番オーソドックスな方法、それは神を拝むことです。

一心に祈りを捧げていると〝神さまはやっぱりいらっしゃるな〟と実感します。

神さまの存在を感じることは、理屈ではありません。当然神界のすべてはわかりませんが、神さまを拝んで感じたことを行動に移していくと、思いもかけない、理屈では絶対に考えられない結果になるのです。

また人間生きていると、思いもかけない障壁とか課題が現れます。理屈で考えていろいろやっても越えられない。考えたら怖くてできない。

それらを乗り越えるには、人間の力が当然なければいけませんが、最終的には神さまの力が働かないと、越えられないと思うのです。

神さまの偉大さを感じる

普段、私は人さまに神さまとか信仰の話をしません。政治がどうなるとか、経済がどうなるとか、最後の答えの部分だけを説いています。

どうしてそんな結論に至るんですか？

どうやって分析をするんですか？　と、よく尋ねられますが、理屈をこねて分析すると見事に外れるんです。

そうではなくて、主旨の真ん中に当たっていると、どんなに大変そう、辛そうに見えること、また理屈において変だなと思うことでも、自ずと良い方向に進んでいくんです。

逆に中心から反れると、何か違うな？と、感じるようになるんです。

ですから、それを頼りに私は仕事をしています。

大本の神さまは宇宙の中心の神さまです。この神さまを拝むって、私たいへんなことだと常々感じています。

だから、私はできる限り個人的なお願いごとはしないようにしています。

なぜかというと、宇宙の中心の神さまでしょう？　そうすると、お願いごとをしてもお困りになるだろうと思うのです。

例えば、合格祈願の神さまが祀られている神社があって、定員二百人の大学に四百人が祈願したとします。すると神さまは相当困られると思うんです。

確かにいろんな選び方あります。玉串の多い額から順に選ぶとか、早いもの順とか……でも結局どうされるかというと、上の神さまにご相談されるんですよ。「二百人のところ四百人来ました、どうしますか？」と。

すると上の神さまも、いろいろ事情を考えて、この人とこの人とこの人にしましょうか、と。でもまだ二百人に収まらないからもう一つ上の神さまに相談をするわけですね。だから結局、どんな願い事も最後は宇宙の中心の神さまのところにあがって調整されるわけです。

ということは、一番最後の調整は、自分の思いとは全く別のところで動いているはずです。

例えば、世の中はドンドン変わっていきますから、昨日と同じことを今日続けたいと思っても、許されないのがこの世です。

全ては天のシナリオであり、神さまが宇宙の中心のために考えて創られていることです。私たちが昨日と同じことを続けたいと思っていても、経済も変わるし、災害や事故など、思いもかけないことがたくさん起こります。

だから宇宙の中心の神さま、世の中を動かしている神さまの偉大さを、改めて感じて、この宇宙や運行の中に自分がいるんだという自覚をしっかり持たなければなりません。

そして身の回りに起きてくる事象に対して、いかに冷静で謙虚な気持ちで判断するかが大切なのです。

科学の行き詰まり

現代が乱れている要因の一つとして、物質に振り回されていることがあげられます。

例えば携帯電話。これは石ころ（鉱石）と臭い水（石油）からできていますが、物質文明が訪れなければ石ころはいつまでも石ころですし、臭い水は黒く臭いままですから、物質文明も神さまがお創りなったものだと思いますし、行き着くところまでとことん発展すると思います。

しかし、発展するところまで行き着くと、そこからもう一回立直されると「大本神論」には示されています。

そして今、科学の分野も相当進んでいて、アインシュタインの物理学では説明がつかない世界が見えてきています。

それはあの世を肯定しないと、科学が完結しないのです。

アインシュタインの物理学では、世の中は一つの風船のようなものの中に入っていて、その外側には何も存在しないという理論です。

例えば、宇宙の一番始まりは何かと尋ねると、何かエネルギーの塊（かたまり）から始まっていると答え、その塊はどこから来たのかと尋ねても、それは偶然にできたと言います。

また最後はどうなるかというと、ブラックホールに吸い込まれて無くなると説いて、その先はどこへ行くのかと尋ねても、それはわからないと答えています。

つまり今の物理学は最初と最後が全然わからないのです。

この世で観測できるエネルギーという物質、この世の中の世界、物質文明は限界まで来て、科学を持ってしても、この外側の世界を認めざるを得ないところまできているのです。

そして、その先の世界は私たちがいきなり見聞きできるものではありませんから、ヒントや道標になるものをもらって、感じていく以外に方法がありません。

そのヒントになるものは直感です。そして道標となるものは、大本の二大教典である「大本神論」と「霊界物語」だと思います。あの中に答えがみんな書いてあります。

「大本神論」には、立替え立直しの前には大峠を迎えると示されていて、今がまさにその真っ只中ではないかと思います。またさらに、その大峠は自分の心の中にあるとも示されています。自分の気持ちが改まれば、大峠は楽に超えられるというのです。

この世に生を受けて、生涯かけて苦楽を経験し、体得して魂が向上する。

ご年配の方で何を言われても〝ありがとうございます〟〝もったいない〟とおっしゃる方がいます。見えるもの、感じるものすべてに対して〝ありがたい〟〝もったいない〟の一言。あの姿こそ人として最高の境地であり、神の域ではないかと思います。

大事なのは〝形〟ではなく〝心〟です。

このたびの東日本大震災では、地震や津波、原発で多くのものが壊れてしまいました。あの光景を見て〝どう思うか〟なのです。形あるものが壊れて、それで終わりではありません。私たちそれぞれの心が改まらなければ意味がないのです。

ここが立替え立直しの重要なポイントだと思います。

宇宙運行の一部を担っている

また、神約には必ず地上天国『みろくの世』が到来するとはっきり示されています。

この時の最大の問題は、その『みろくの世』に自分の居場所があるかないかです。

自分の居場所を築くためには、自分自身をよく省みて、悪いところは改めて生活していかないと、気がついたら居場所がなかった！　ということになりかねません。

さらに、人の幸せは天と一体ですから、宇宙の運行と自分を祭り合わせるのです。

私たちは自分の意思で行動しているように見えて、動かされています。生涯かけて神劇を演じているのです。だからその役をしっかり果たさなければいけません。

見聞きするもの身近に起きることは、すべて自分に示された神劇なのです。

世の中、神劇という観点で見ていれば、善も悪もありません。人間の決め事としての善悪の判断を超えたところにあるので、宇宙の運行の一部を自分が担っているんだと、視野を拡げて初めて理解できます。

進展主義

出口王仁三郎は人生をより良く生きるための指針として『四大主義』（清潔主義・楽天主義・進展主義・統一主義）を説きました。

中でも私が大切だなと感じるのが「進展主義」です。

物事は後ろに戻してはいけません。地震で家屋が全壊した。津波で町が流されたからと言って、昔の通りに戻すことは出来ません。新しい町を作り直すしかないのです。

恐れずに前へ向かっていくことです。辛いことも当然ありますが、常に宇宙も世の中も進展しているのですから、その進展を止めようとか、後ろに戻そうとかという思いは非常に問題です。

人は成長し、物事も変わって行きます。うまくいかなくても、行動しながら直して行けばいいんです。

止まってはダメです。失敗するのが嫌だ、非難されるのが嫌だ、負けるのが嫌だと言って逃げ回っていては何も進みません。行動して良い答えが出るか、悪い結果になるか、そこからまた考えようとする。これが「進展主義」です。

自分がいいと思ったら、怒られようが、少数派に回ろうが突破してみたらいい。そこで人間界では、争い事があるかもしれないけれど、宇宙の目から見たら物事を進展させることになるのです。

自分から行動を

それと一見すると不幸に見えること、大変なこととか、悪く感じることは、世の中が良くなっている現象の表れだと思います。つまり悪いものが表面や公に出て、良いものへと清められている証しなのです。

悲劇が起きれば起きるほど、私たちは、良い世の中を作るために急がなければなりません。世の中が乱れる、突然人が亡くなるということは、あってはならないことです。しかし実際起きているということは、自分自身を良く省みて、より良く行動しなさいと天が急かされているのです。

どんなに良い意志があり、未来に対して思いがあっても、行動を起こさなければ実現することはありません。自分の小さな幸せと、小さな利害損得にしがみついていると、一向に進まないわけです。

これからの時代は、宇宙の中心と自分自身、この両方の世界が実感できないと、本当に辛い世の中だと思います。

今までのアインシュタインの世界の宇宙から、これからは宇宙の外側がいよいよ出てくる時代です。言ってみれば生死を超えた世界です。

私たちも努力して、発想と行動を変えて行かないと幸せを実感できないのではないでしょうか。

このことを真剣に受け取り、進展主義を実践していかなければなりません。前に進み、行動しながら考えることです。

そのためにも、まず私たちが変わることです。そうすると人類も地球も宇宙全体も、きっと良い方向に変わっていきます。

企業繁栄祈願祭

第三十回企業繁栄祈願祭（主催・東光経友会）は、四月二十二日午後二時三十分から、斎主・和田桂一祭務課長のもと執行され、百六人が参拝した。

祭典は、祓式行事に続いて斎主が大神さまに「企業繁栄祈願大神奏上祝詞」を奏上。続いて一同で「天津祝詞」を奏上。次いで斎主が市杵島姫命さまに「企業繁栄祈願祭祝詞」を奏上。関東はもとより全国各地から申し込まれた企業百九十一社の社名が読みあげられ、世界経済の発展と各企業の繁栄を祈願した。

その後、玉串捧奠に続いて、斎主先達で「神言」を奏上。次いで讃美歌を斉唱して祭典を終えた。

祭典後、東光経友会を代表して浅田秋彦同会幹事長があいさつをのべ、続いて米川清水㈱ＮＴＴファシリティーズ常務取締役が「環境問題を考える～ＩＴによる省エネの取り組み～」と題して記念講演が行われた。

市杵島姫命さまに世界経済の安定と各企業の繁栄をお祈りした

ＩＴ（情報技術）を通じて、節電に取り組む暮らしを紹介された米川先生

東光苑月次祭

東光苑月次祭は五月十三日、午前十時三十分から、斎主・和田桂一祭務課長のもと執行され、三百五十五人が参拝した。

祭員は東京主会、少年少女祭員は東京主会の伊藤奏流くん、涌井大嗣郎くん、吉田英里香さん、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は朝倉泰群馬主会長、添釜は東京玉松分所の皆さんが担当した。

祭典後、浅田秋彦東京宣教センター長があいさつに立ち、五月五日に執り行われた『開教百二十年みろく大祭』の様子や現在天恩郷の〝ギャラリーおほもと〟にて開催されている『耀盌展』について、また来年神奈川主会主催の『出口王仁三郎その一門展』について紹介。「芸術を通して神さまのみ光りをあまねく輝かせ、対外講演会などの教えと併せて広く宣べ伝えていただきたい」と述べた。

真剣な祈りを捧げる参拝者の皆さん

出口なお・出口王仁三郎の世界を語る

第百十一回大本公開講座『出口なお・出口王仁三郎の世界を語る』は、五月十六日午後七時から八時三十分まで、港区新橋の航空会館において、浅田秋彦東京宣教センター長を講師に「出口王仁三郎の予言―未来の世界・経済・教育は」と題して開催された。参加者は二十五人（内、一般十人）。

講座では、出口王仁三郎聖師が示した教典『霊界物語』や神書、談話、短歌などの中から〝みろくの世〟の姿について解説。「〝みろくの世〟が訪れる日をただ待つのではなく、まず自分自身の心の中に〝みろくの世〟を築かなければならない」と力説した。

参加者からは「以前より出口聖師の予言に関心があり、勉強になりました。混乱の世にあって〝今なすべきこと〟の結語は大きな励みになりました（七十五歳・男性・一般）」「もっと世界的な目を持ち、自分の生活と心を改めていこうと思いました（三十九歳・女性・一般）」などの感想が寄せられた。

神さまの意に叶った生活の実践を

東光苑祭典・行事予定

6月

10日（日）午前10時30分
東光苑月次祭・世界平和祈願祭
市杵島姫命例祭

20日（水）午後7時～8時30分
「出口なお出口王仁三郎の世界を語る」
講題　日本および日本人の使命
―日本は世界の要―
講師　森　良秀（東京宣教センター次長）
会場　航空会館（港区新橋）

7月

8日（日）午前10時30分
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

18日（水）午後7時～8時30分
「出口なお・出口王仁三郎の世界を語る」
講題　宇宙創造神と人
―人間をあやつるもの―
講師　浅田秋彦（東京宣教センター長）
会場　航空会館（港区新橋）

毎週月・水・金曜「常設対外講座」開催中
［昼の部］講話　午後2時～3時30分
［夜の部］実習　午後7時～8時30分

大本常設対外講座ただいま開催中！

開催曜日　毎週：月・水・金曜日　　**参加費**　無料
昼の部【講話】午後２時～３時３０分
夜の部【実習】午後７時～８時３０分
※ただし、毎月第３水曜日の〝夜の部〟は新橋での「大本公開講座」開催のため休講いたします

場　所　８階ミーティングルーム（昼の部）、３階教務室（夜の部）
内　容　［昼の部］講話：月曜日「人生の目的」
水曜日「人生を豊かに生きるために」
金曜日「あの世を知ってこの世を生きる」
［夜の部］実習：礼拝・鎮魂・修座・浄書（各曜日共通）